

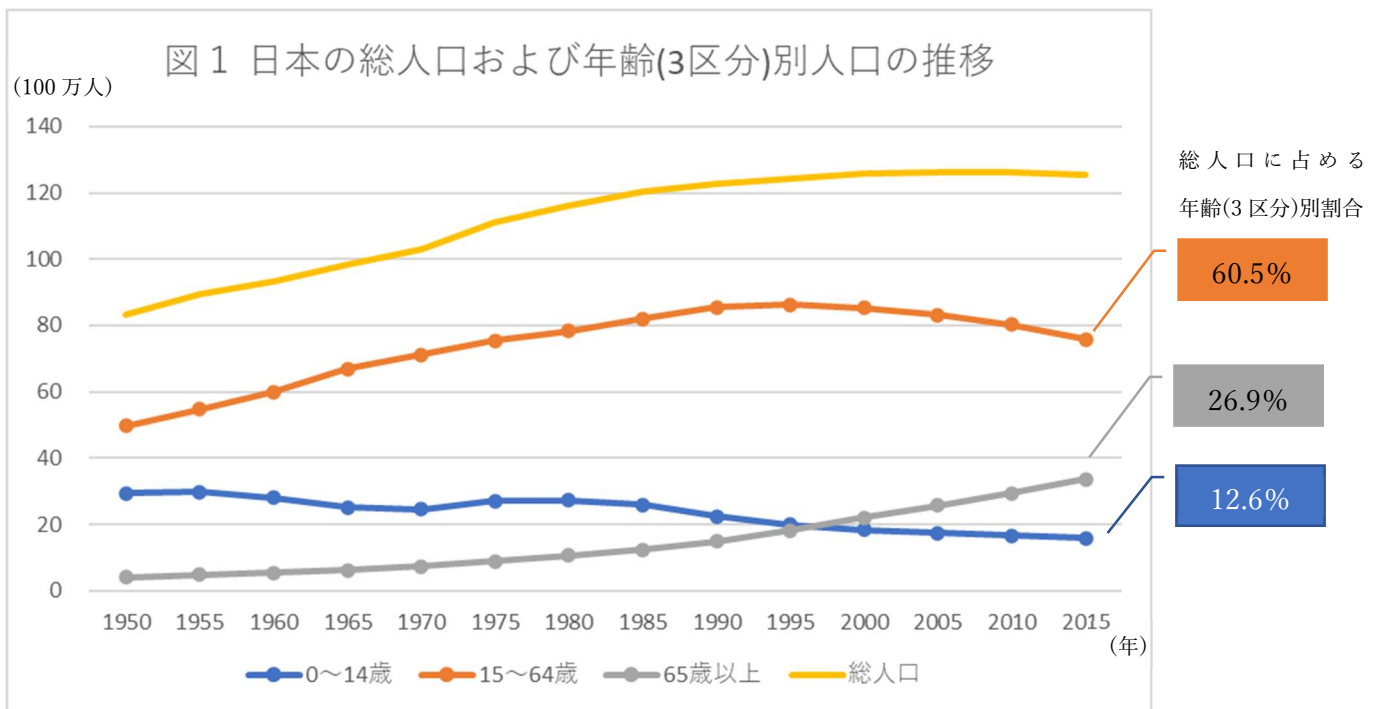
一般選抜試験 課題思考型 出題例

出題テーマ：少子高齢社会

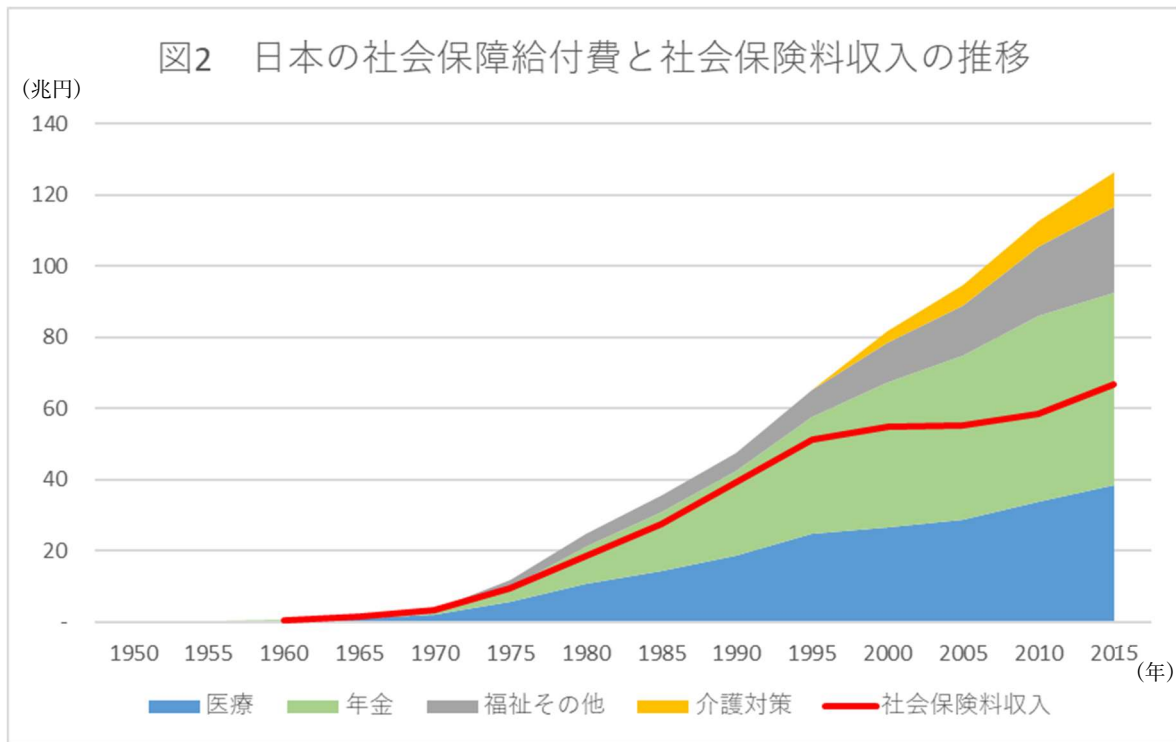
問1 以下の図1・図2をもとに、これまでの日本の人口構造の変化を踏まえ、

- ①日本の社会保障給付費と社会保険料収入の推移についての特徴を説明してください。
- ②このような人口推移が今後も続くと仮定すると、将来推計として日本の社会保障制度における収入と支出の間にはどのような問題が生じると思いますか。

それぞれについてあなたの考えを述べてください。(400字原稿1枚配布、字数指定なし)



- ・1990年(平成2年)、2000年(平成12年)、2005年(平成17年)、2010年(平成22年)、2015年(平成27年)は、国勢調査の確定数(あん分済み人口)。
- ・1985年(昭和60年)は「昭和60年国勢調査抽出速報集計結果」による。
- ・1950年(昭和25年)、1955年(昭和30年)は一部年齢不詳を含む。
- ・それ以外の年は、国勢調査の確定数。



出展：平成 30 年度 社会保障費用統計より

(用語説明)

社会保障…病気やケガ、失業、老齢や障害など、自立した生活が維持できなくなる場合に、医療保険や年金保険、社会福祉制度などの法律に基づく制度として国民の生活を支える国の仕組み。

社会保障給付費…社会保障制度における、障害者や高齢者等へのサービス提供事業者や医療機関の診療行為に対して支払われる費用、国民に直接支給される老齢年金や児童手当などとして、税金や社会保険料などを財源として支出された額を合計したもの。日本では部門別に「医療」「年金」「福祉その他」の3つに分けているが、図2においては通常「福祉その他」に規定される「介護対策」費用を分けて表記している。

社会保険…医療保険、年金保険、労働保険（労災保険・雇用保険）、介護保険などの、健やかで安心できる生活を営むことができるように、国が保険制度を利用して、社会全体でこれを実現しようとする社会保障制度の1つ。

社会保険料収入…社会保障財源のうち、公的医療保険、年金保険、労働保険などに加入する者（国民・被雇用者）が支払う保険料と、事業主（企業）や国が負担する保険料のこと。

問1 出題意図

基本的な社会保険制度の理解をもとに、少子高齢化に伴う人口構造の変化による社会保障支出の変化をどのように捉えるのか。社会保障費に関する収支と人口構造変化がどのように関連しているのかについて述べることができるのかを問う。

(評価項目)

- ・特に生産年齢人口と高齢人口の比率の変化による、社会保険料の収支の変化がどのように推移してきたのかを説明できるか
- ・高齢化の進展による社会保険料収入の鈍化が、今後の社会保障制度にどのような影響を与えるのかを説明できるか
- ・介護保険制度の創設など、医療・年金・福祉に関する支出が人口変化と社会情勢の変化により社会保障の枠組みとしてどのように推移してきたのかを説明できるか

問2 以下の文書を踏まえ、人と人の関係性について今後の社会ではどのように考えていくことが

大切になるだろうか。各自の考えを述べてください。(400字原稿1枚配布、字数指定なし)

日本文化の中では、関係性に価値観を置いて幸せを得てきたということが、これまでの研究から明らかになっている。しかし、この2、30年、競争原理により個人主義化が進み、一人で生活できる社会が都市部で顕著となった。

そんな中、最近の若者への調査では、高校生や大学生がかなり関係性志向に回帰しているというデータが出ている。一人で何でもやりたいわけではなく、むしろ家族や昔からの友人、知人も大事にしたいという人たちが増えている。これは、都市化が進んで個人主義になってきた中で、都市の中の孤独・不安が浮き彫りになってきたことに対するある種のカウンターではないだろうか。

人が集まる場所には情報やモノが集積するため、人は人が集まる場所へ行きたいと思う傾向がある。ところが、人が多過ぎるようになると、今度はだんだんと関係性に面倒を感じてしまい、少し距離をとりたくなる。そして、距離をとるうちに、他者となかなかうまく付き合えないようになってしまう。こういうものに対して、人はストレスを感じる。孤独であるというのは非常に辛いことなのだ。

こうした孤独を解消するために、関係性への回帰、家族への意識の回帰が起こってくるとすれば、それが実現しやすい適正なサイズがあるだろう。東京の都市部でいろんな人とつながりましょうといっても、多過ぎてなかなか一人一人の顔を覚えたりはできない。一方で、小さな町・村であれば、その適正サイズがむしろ機動力を持って新たなスケールメリットになっていく。スケールメリットというのは大きければいいということに使うものだが、そうではなくて、機動力を持てる、あるいは人とのつながりを感じられるサイズというものがあつた種の新しいスケールメリットとして再定義できるのではないか。

関係性というものをもう一度生かそうという動きがある中で、今後はそれをどう実現していくかということに注力したほうがよい。例えば、社会科学ではソーシャルキャピタルとあって、社会関係資本、すなわち社会関係というのは資本であるという考え方がある。これは物的資本や人的資本と同じように、つながる資本として生かすことができる。

この資本には2つの種類があると言われている。一つは、ボンディングとあって、中の人同士が結束してお互いに助け合う。もう一つは、ブリッジングとあって、ある都市とある都市、あるいはある拠点とある拠点をつなぐ。

つまり、中で助け合いをしながら外には閉じずに、情報交換、人の交換、モノの移動を行っていく、そういう地域の連携を一つの手がかりにすることによって、日本の都市部、地方部はどんどんつながりを持って、よりお互いに魅力的な要素が出てくるのではないかと考えている。

また、地方の中でここでないとできないことという特色を持たせることで、ブリッジングの機能を拡充させていくことを考える必要があるだろう。そのためには、地域の住民の人たちの中で、一体何が地域の中の誇りになっているのか、あるいは何が愛着になっているのか、何が幸せをもたらす要素になっているのかをきちんと分析することが大切だろう。

それほど大きくなくてもよいので、安定した、それなりに暮らせるぐらいの雇用を確保した上で、その町の特長を出して行って、よいボンディングとブリッジングを形成し、都市の孤独というものから日本全体を救う役割を地域が担えるようになれば非常によいのではないか。

出典：内閣府「選択する未来－人口推計から見えてくる未来像－」より『内田 由紀子「人と都市のつながりの再構築を」』

(<https://www5.cao.go.jp/keizai-shimon/kaigi/special/future/sentaku/index.html>)

問2 出題意図

人口減少社会を背景にした、労働力人口の減少や都市部への人口が集中する社会において、解答者が日常生活を営むうえで人とのつながりの必要性をどのように実感しているか、またそのようなつながりについて解答者がどのように捉えているのかを問う。

(評価項目)

- ・人口減少社会として現代社会を捉えた場合、解答者の住む地域などを例に人と人のつながりの状態をどのように把握しており、それを表現することが出来ているか。
- ・今後の社会における人と人のつながりについて、解答者はどのように捉えており、それを表現することが出来ているか。

問3 少子高齢化の現状については、様々な社会的要因が存在する。要因とされる現象や社会問題について、あなたの住む地域において注目する課題や少子高齢化への対策を取り上げ、その考えを述べてください。(400字原稿1枚配布、字数指定なし)

問3 出題意図

人口減少・高齢化社会における様々な要因について、1つまたは複数の要因がなぜ存在しているのか、受験者が住む地域の実情をもとに、社会状況の捉え方や関心の向け方について知る。

(評価項目)

- ・社会(地域社会)への関心があるか
- ・テーマに関する用語や概念を適切に説明出来ているか
- ・自己の考えを適切に述べる事が出来ているか